

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

イマジン ローターリー



クラブの未来を描き
ロータリーを楽しもう

RI会長 ジェニファーE・ジョーンズ 2022～2023

富津中央RC会長 須藤 隆

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2685 第6回例会 2022. 8. 25

点 鐘：須藤 隆 会長

進 行：朝月真次郎 SAA

ソング：奉仕の理想

お客様：外部卓話者

子供食堂 神谷尚志・神谷こころ 様

今日のお客様をご紹介します。神谷さんご夫婦です。ようこそ私たち例会に卓話のためお越しいただき有難うございます。後程、子ども食堂の支援を主導していただいた神子会員より卓話者の紹介していただきます。

さて、今日は「ロータリー友誌今月8月号」に掲載されていたRI会長のメッセージの中で、DEI (Diversity 多様性、Equity公平さ、Inclusion包摂性) に関する記述がありましたのでその内容の一部を紹介したいと思います。

「ロータリーが、組織全体のDEIを推進するために、今こそ次の一步を踏み出すべきです。多様性に関し、皆がロータリーの一員であると感じられるような体験を大切にすることは、単に会員層を多様化すればよいとの話ではありません。例会やイベントを本音で話し合えるオープンな場に、会員たちが、「自分は歓迎されている」と感じられる、居心地の良い場所にしなければならないのです。そのためには、入会の障壁を取り除き、インクルージョンのために扉を開かなければなりません。」とっております。

ここで言っている「インクルージョンの扉」は私たちに分りにくいと思います。インクルージョンという言葉にわかりやすい日本語がないため、メッセージでも敢えて、日本語にせずインクルージョンという言葉そのまま使っております。私はインクルージョンには多様性を受け入れる包容力や寛容の気持ちを持った思いやりが込められているのではないかと勝手に思っております。

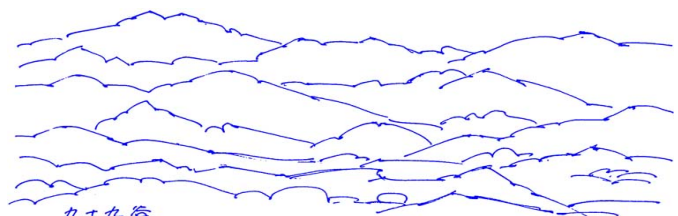
会長挨拶

須藤 隆 会長



こんにちは。依然としてコロナ感染が収まる気配がありません。それでも今回は、政府から蔓延防止等の行動制限は発令されておられません。私たちの例会も、通常通り続けていく予定にしております。ただ、大勢での会食が感染のリスクを高めることから、中には例会出席を控えている会員もおります。先週の理事会で、本人の申し出があれば、感染リスク回避のための例会欠席は、出席扱いとすることを決定いたしました。ご承知ください。クラブによってはWEBで例会に参加している人もいます。この状態が長く続くようでしたらWEBでの例会出席ができるような措置が必要になるかもしれません。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



ロータリーは中核的価値観として親睦、高潔性、奉仕、リーダーシップを挙げてきました。これにRI会長が推進するDELを加え、これらの価値観は今後ともロータリーの強みであり続けるだろうとも言っております。ちょっとわかりにくい話になりましたが、RI会長のメッセージの一部を紹介させていただきました。

幹事報告

相川恵津子 幹事

1. 風の便り
 2. 2022・23年度7月期MCRレポート送付の知らせ
 3. コーディネーターニュース9月号
 4. 第20回記念ロータリー全国囲碁大会のご案内
 5. 米山奨学生主催バーベキュー大会のご案内
 6. 米山梅吉記念館より館報
 7. シンフォニクルーズの案内
- 以上、回覧をしております。

お客様紹介

神子勝美 会員

ご安全に。お二人はご結婚されました。おめでとうございます。旧姓鈴木こころさんは、現在は神谷こころさんです。ご主人は、尚志(なおゆき)さんです。本日は卓話をよろしくお願い致します。

昨年度富津中央ロータリークラブとして、子供食堂お手伝いという形でスタートし、女性会員中心に活動を展開してきました。話を聞く中でお母さんと娘さんで子供食堂「はらぺこキッチン」を立ち上げ現在に至っているとの話を聞いて、継続は力なりを改めて感じました。本日は、努力されている内容を含め思いを会員の皆さんにお伝えください。それではよろしくお願い致します。



外部卓話

子供食堂 神谷こころ 様



はじめまして、はらぺこ応援団の企画と子ども係の神谷こころです。よろしくお願いします。

わたしのプロフィールを紹介します。

1998年に生まれ、中学校まで富津市内の学校に通っていました。2016年に高校を卒業して4月に保育の専門学校に入学しました。2018年専門学校在学中ボランティア団体のはらぺこ応援団を立ち上げました。2019年専門学校を無事卒業しました。4月から社会福祉法人ハクコウカイ豊岡光生園へ入職し現在に至ります。

今日はわたしが立ち上げたボランティア団体はらぺこ応援団の活動である子ども食堂についてご紹介させていただければと思います。

みなさんは子ども食堂にどんなイメージをお持ちですか？メディアで貧困やひとり親家庭の子が行く場所のように報じられていますが、子ども食堂とは…無料または安価で栄養のある食事や暖かな団欒を提供する地域住民等による民間発の取り組み子ども食堂の活動はさまざまですが親子で参加する場合も含めて子どもにとって貴重な共食の確保地域コミュニティの中でこのものの居場所を提供等の積極的な意義が認められますとのこと

はらぺこキッチンでは年齢や住んでいる場所関係なく誰でもきて誰でも食べられる子ども食堂を目指して活動しています。そんな子ども食堂とわたしがどのように出会ったのか少しお話しさせてください。

わたしが学生時代コンビニでアルバイトしていた時ほぼ毎日1人分の夕食を買いに来る男の子がいました。その時間に1人で買いに来るとことは自宅で1人で食べているのかなと思いつつときになっ

ていました。7人家族だったわたしは1人で留守番をすることも1人で食事をする経験もなかったのもそのこがもし1人で食べているのであればどうにかならぬかなと思っていました。同じ時期に保育補助のボランティアと学童保育のアルバイトをしていた時も遅い時間にお迎えにくるお母さんたちは帰ってからご飯を作って食べさせ片付けと次の日の準備と子どもたちのお風呂などもありやるのがたくさんあって大変だろうなと思っていました。そんな時通っていた専門学校で子ども食堂を立ち上げることになり子ども食堂の存在を知りました。これがわたしと子ども食堂の出会いでした。系列の学校で調理し提供する。来てくれたお母さんたちがゆっくりご飯食べられるように先に食べ終わった子どもたちと遊ぶという活動でした。はじめはおもしろそうだからやってみようくらいしにか思っていませんでした。そこで出会ったお母さんにこの子ども食堂にくると子どもを叱らなくていい時間ができて余裕を持って子どもと接することができますと言ってくれてくださることがありました。わたしが参加している活動でお母さんたちの力になりよるこんでくれているんだなと学生ながらに実感できました。横浜の専門学校に通って富津市から離れてみてわかったことがありました。海も山もあって自然豊かなこと、同級生とは幼少期に経験したことギャップがありすごく貴重な経験をして育ってきたことを感じました。木登りや砂遊びなど経験したことがない同級生がほとんどでした。今の子どもたちは殺菌された砂でしか遊ばないことがわたしにはとても不思議な感覚でした。富津は地域で子育てしていること近所のおじいちゃんおばあちゃんが子どものことを気にかけてくれ、いってらっしゃいやお帰りを言うてくれることを感じ子どもたちが成長した時に次世代へ富津市の良さが伝わって言って富津で育ってよかったと思ってもらえるような活動をしたいと思うようになりました。両親にそのことを話すと…実家は専業農家で酪農と路地野菜(とうもろこし、ブロッコリー、さつまいも、さといも)とお米をやっている。規格外の野菜が多いこと地元の野菜を使って何かできないかと考えていたこと直売所に出荷した野菜でも売れ残りは破棄されてしまうこと。その野菜を

救いたいという母の思いとわたしの富津へ何かしたいという気持ちが重なり子ども食堂を始めることになりました。

第1回のはらぺこキッチン(金)は2018年4/6(金)地域の方々にお越しいただき会食形式で実施しました。大人400円子どもは無料メニューはカレーライス、マカロニサラダ、フルーツポンチを提供しました。初回にも関わらず100名の方にお越しいただきました。このメニュー表は近所の方が子ども食堂のお手伝いは仕事があってできないけどこういことでよければお手伝いさせて欲しいといただきました。初回の様子です。はらぺこキッチンでは3つの約束を決め参加してくれる子どもたちに守ってもらいました。

- ①大きな声でいただきますを言きましょう
- ②残さず美味しく食べましょう
- ③お皿を戻してごちそうさまを言きましょう

これは子ども食堂に携わってくださる方と食材への感謝のきもちを育てたいと思いはじめました。

回数を重ねるうちに子どもたちがボランティアをする側が気になるようになりました。

最初は受付を手伝っていましたが作る方がやりたいと言う声が上がりがあみなで作っちゃおう！と大賛成で子どもボランティアが生まれました。学校から公民館へたぐいま〜！とかえってきて、みんなで作り食べる活動へと発展していきました。子どもたちから食べたいもののアンケートをとり子どもたちの好きなものを中心にメニューを決めています。

1番人気のメニューはやっぱりカレーライスです。活動を始めて1年が経とうとしていたとき他の子ども食堂がやっていないことをやろうとおとな食堂を開催することにしました。おとな食堂とは…日々子どもたちに関わっている保護者、学校の先生、近所の方や子ども食堂に関わってくれるおとな、食材を提供して下さる生産者の方を招待し子どもたちの成長と日々の感謝を伝える場として始めました。毎年3月に開催してました。おとな食堂を開催するにあたり子どもたちはまず作戦会議をしました。何を作るか相談したり招待状作りをしました。

子どもたちは緊張しながらみんなで校長室へ招待状を渡しに行ったそうです。これは作戦会議の様子です。これは当日気持ちを込めて調理している様子です。出来上がりはこんな感じです。カレーライス サラダ ミルクプリンは作戦会議の時に決めました。手前のナムルは当日にいただいた野菜で子どもたちから作りたいと意見が出て急遽メニューにくわえました。お越しいただいた方からたくさん褒めていただき子どもたちもとても嬉しそうでした。他にも2019年台風の影響で被災した地域に県外からボランティアが来てくださいました。ボランティアの方に少しでも恩返しをしたいと子ども食堂へご招待し、お腹いっぱい食べていただきました。

2021年に台風で公民館が避難所になった時は避難している方に無償でお弁当を配布しました。こうした活動を通して地域に子ども食堂が徐々に浸透していきましたが、、新型コロナウイルスの流行により公民館が閉鎖になり2020年3月～5月まではらぺこキッチンが中止となりました。

2020年6月から再開しましたがコロナ前から開催の仕方が大きく変わりました。会食形式からお弁当提供のみその場での飲食は禁止子どもボランティアも中止になり、調理室には最低限の人数での調理になりました。いつも2～3人で調理しています。2022年8月現在もお弁当提供とフードパントリーのみの開催をしています。フードパントリーとは誰でも無償で食の支援が受けられる活動です。これから子ども食堂はらぺこキッチンとして目指していきたいこと幅広い年代の方に活動を知って参加してもらいたいと同時に感謝する気持ちを育てていきたいです。ありがとうを言わない(言えない)大人と子どもが増えていて、子ども食堂に来てあげている意識の参加者が増えています。この状況は改善して行かなければと思います。

また、子ども食堂が全国的に増加していて君津4市、市原市をふくむ子ども食堂が現在22ヶ所あります。それぞれ開催日が異なり、子ども食堂を日替わりで利用するホッピングの方が増え、需要がたかまっています。だからこそありがとうという感謝の気持ちを強く持ってほしい。と思います。

コロナ前の様子ではありますがこの写真には3家族写っています。子ども食堂を通して地域交流の場ができていました。徐々に子ども食堂の活動が広まってくると利用する方が増えてきました。

わきあいあい近況報告をしたり賑やかに調理や会食をする姿が見られ子ども食堂を始めてよかったと思いました。

子ども食堂を始めた当初は小さかった子どもたちも今では大きく成長し、立派なおにいさんおねえさんになった今でも子ども食堂を利用してくれています。この子たちがこれからの富津市を支えて行ってくれるのだと思います。

最後に本日はこのような場をもうけていただきありがとうございます。ロータリーさんには子ども食堂に日々たくさんのご協力をいただきたいへん感謝しております。これからも続けていきますのでご協力よろしくお願いたします。ありがとうございました。

ニコニコBOX

栗原典子 親睦担当
須藤 隆 卓話者として神谷夫妻をお迎えして
相川恵津子 子供食堂の神谷ご夫妻をお迎えして
神子勝美 尚志さん、こころさんご結婚おめでとうございます。子供食堂のお話し有難うございます。

栗原典子 同上
榎本守男 絶好調も雷で中止。若鍋さん、恒さん、てっちゃんお世話になりました。
神子 恒 椎熊さんの映像素晴らしかったです。

* >1,000円

出席報告

平川恵敏 出席担当

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	21/30	13	10	2	76.67%
前回	23/31	113	10		74.19%
前々回	22/31	12	10		70.96%